

女性の視点でオリンピックをPR

リオデジャネイロオリンピックにおける日本選手団の活躍も記憶に新しいところですが、4年後の2020年には東京でオリンピックをPRするため、区役所ロビーではパネル展が始まりました。今回のパネル展は、区内にある女子美術大学の学生が制作したオリンピックに関するコンテンツの展示が中心です。その作品は、シンクロナイズドスイミングのメイクやロンドン大会開会式のコスチュームにスポットを当てるなど、女性ならではの視点になっていてとても新鮮です。展示は、30日までです。

オリンピックに初めて女性が参加したのは、1900年と言われています。古代オリンピックは女人禁制で、第2回の近代オリンピック大会がフランス・パリで開かれ、19カ国、1066人の選手の中に12人の女性選手が含まれていました。初めて女性に開放された種目は、テニスとゴルフでした。

時を同じくして、1900年(明治33年)10月に、女子美術大学の前身である私立女子美術学校が設立されます。今回の展示を区から同校に持ちかけたところ、女性がオリンピックをはじめ、社会で活躍できることに役立てればと快諾を得ました。パネルは、同校芸術学部アート・デザイン学科3年生が製作したもので、30枚ほどが掲げられています。

作品は、シンクロナイズドスイミングの選手のチーム毎に工夫を凝らしたメイクに焦点を当てています。また、ロンドン大会に各国の女性選手などが着ていたコスチュームを紹介。そのほかにもレスリングやサイクル競技など、女性選手の活躍をイラストや漫画タッチで表現しています。大学生の作品のほかにも、1964年に開催された東京五輪の写真も併せて展示しています。

パネル展は、区役所ロビーで本日から始まり、色鮮やかな作品に多くの来庁者が足を止めて見入っていました。展示は、土・日を除き30日までです。



【報道機関 問い合わせ先】

オリンピック・パラリンピック連携推進担当 : TEL : 3312-2111 内線 3771